

---

# サッカー小僧

うぐいす。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サッカー小僧

### 【Nコード】

N3842D

### 【作者名】

うぐいす。

### 【あらすじ】

公立高校に二人のサッカー小僧が入学した。大輝と隆介のデコボココンビが高校サッカーに殴り込みをかける。サッカー小説はとても難しい話ですが、挑戦してみます。

## ブローグ

最終ラインが下がるのに合わせてその少し後ろを上げる。

左サイドから右サイドへのサイドチェンジが通り、ディフェンス一人をどうにかかわすのを、センターバックとポジションを取り合いながら確認。

勝負にでる。

上がったボールは少し長くキーパーが出てきた。  
競り合いにいくが手が使える分、当然向こうが有利。

しかし、俺の存在意義はここにある。

キーパーの手に入るはずだったボールは、俺のミラクルなヘッドで見事ゴールネットを揺らした。

これが俺の、有村大輝のサッカーだ。

## 1話 見学（前書き）

試合の描写の指導してくれる人募集しています。あとドコがおかしいとかの意見もよろしくお願いします。

## 1話 見学

「大輝！部活行くぞ。」

「隆介？あれ、どこだ？見つからないなあ。」

「喧嘩売ってんのか！？お前の目の前にいるだろうが！」

「おお、小さくて気付かなかったよ。」

「てめえがデカすぎんだ、このウドの大木が！」

この掛け合いが実は好きな俺は有村大輝。

現在高一で183cm。

163cmでチビのこいつは小向隆介。

同じ高一で同じ中学でサッカーをしていた我が戦友である。

隆介がクラスに入って来た瞬間に女子が遠巻きに意識している気配が伝わってくる。

おもてになるのだ、このチビは。吊り目に日焼けした肌に軽い茶色のサラサラヘア！。

笑った時のガキ大将っぽい笑顔がチャームポイントらしい。

憎い。このチビが憎いよ。

「ところで大輝。今日の放課後にサッカー部見に行くって言うてた  
だろ？」

そう、実はもう入学から一週間たっていたが、部活はまだ入ってい

なかった。まあサッカー部で決まりだが、中学の大きな大会があり、コーチを頼まれていたので行けなかったのだ。

お互いにスポーツ推薦は来たが蹴り、中学の先輩に誘われて地元の公立校に進学したわけだ。

「行く行く。村松先輩元気かね？」

「あの人が元気じゃないとか考えらんねえな！相変わらず俺様が法律じゃボケエとか言つてんじゃねえか！」

「懐かしいなあ。あのキャラはオンリーワンだよ。」

「あれが二人いたらどっちか死ぬまで殺し合うから結局一人だろうな。」

「それリアルだわ。」

グダグダと話しながらグラウンドに着くともう練習をしていた。

ミニゲームをしているようで、俺たちは端っこで見学する事にした。

「レベルが高い。  
スキルも高いし、しっかりサッカーを理解して動いているのがわかる。」

「ただの公立校にしてはレベル高けえな。村松先輩に鍛えられてんのか？でもまだ二年だろあの人。」

「関係ないみたいだよ。ホラ。」

俺が指差した先にいたのは村松先輩だ。

先輩は司令塔の位置にいて、トラップでマーカー二人を置き去りにし、そのまま最終ラインに突っかけて行く。

我慢仕切れずに飛び出したディフェンスがチェックに来ると、その裏にボールを落とす。

それをFWがぴったりのタイミングで飛び出し、キーパーと1対1になるがキーパーのポジショニングが抜群だった。

苦しい紛れのシュートだったが威力は充分で、キーパーは弾くだけで終わる。

そのこぼれ球に詰めるのは先輩だった。  
完全フリー。

ズシャア

と気持ちいい音を伴ってサイドラインに突き刺さった。

「相変わらず派手なプレーだね。全部読み通りって顔してるよ。」

「あのFWもなかなかだろ。これ以上無いってタイミングだったし、それを読み切るキーパーもすげえよ。」

「オイ、その二人組！」

急に村松先輩が俺らに声をかけてきた。

「一緒にやろうぜ。高校サッカーのレベルを見せてやるよ。」

不適に笑う先輩は完全に挑発している。

その誘い、乗らない訳がないだろう。

「行くぞ、大輝！」

「おお！」

二人の高校サッカーが始まりを告げた。

これはその後、高校サッカーの伝説となるチームの始まりでもあった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3842d/>

---

サッカー小僧

2010年10月10日05時06分発行